

デジタル環境下の大学図書館： 京都大学での実践を踏まえつつ

Academic Libraries in the Electronic
Environment: Discussions based on
the Practices at Kyoto University

京都大学附属図書館研究開発室
古賀 崇

R & D Lab., Kyoto University Library
Takashi Koga

本日の内容

- A. ハラヴェ著
『ネット検索革命』より
- 京都大学での実践より
 - 情報リテラシー教育・講習活動
 - 機関リポジトリ等による情報発信
- 今後の課題など

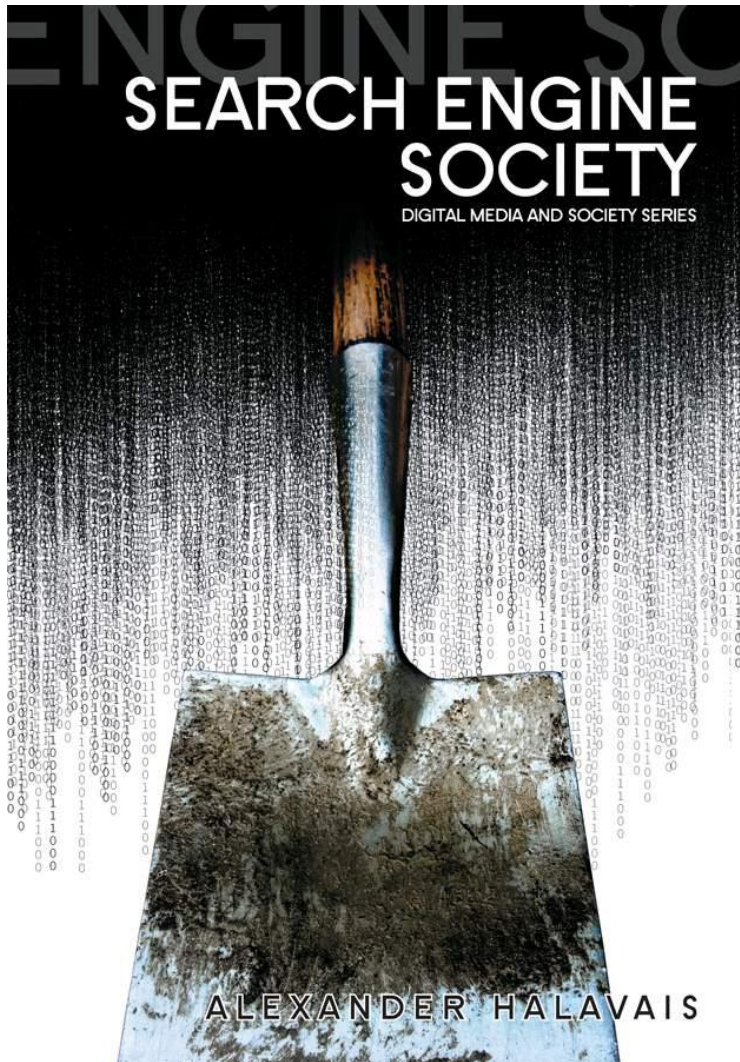
はじめに：自己紹介も兼ねて

- 京都大学附属図書館研究開発室
(Research & Development Laboratory (R &D Lab.), Kyoto University Library)
 - 1996年4月設立
 - 2009年1月、はじめての専任教員として古賀が着任

<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/rdl/index.html>

1. A. ハラヴェ著
『ネット検索革命』より

A. Halavais. *Search Engine Society*. Polity, 2008.→
A. ハラヴェ『ネット検索革命』田畑暁生訳, 青土社, 2009.



図書館界にとっての論点 (Issues for librarianship)

- ネットの情報には偏りがある、というのをいかに伝えるか
 - 「ネット上の情報の全否定」ではない
- 「**検索知識人 (the search intellectual)**」としての図書館員、研究者の役割
- 大学として、また図書館として、デジタルないしネットの環境にかかわっていく必要性
 - 「有益なコンテンツの発信」も含め

2. 京都大学での実践より

(1)情報リテラシー教育・講習活動 (Information literacy instruction)

- 「情報探索入門」
 - 1998年度より開講、12年が経過
 - 「図書館の活用法」を正規科目とした、国内では先駆的事例
- 授業内容: OCW (Open Courseware) として公開
 - http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content_id=3
 - <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/introduction-to-information-retrieval/>

(1)情報リテラシー教育・講習活動(続き)

- 図書館単独の取り組みだけではなかなか浸透しない
 - 例: 図書館での講習会の知名度
- 教員への働きかけを意識する方向へ
 - 授業やゼミの中で1コマを図書館の時間に充てる
 - FD活動を通じてのアピール

FDに関連して...

- 大学教育改革フォーラム in 東海 2010
– 2010年3月13日、於・名古屋大学
- パネルディスカッション「大学の学習支援における図書館の可能性」

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2010/>

(2)機関リポジトリ等による情報発信 (Institutional repositories)

- 京大のリポジトリ“KURENAI”:国内外で高い評価

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

–収録論文数 5万点を突破(国内最多)

–Ranking Web of World Repositoriesで国内第1位、世界第34位(2010年1月)

http://repositories.webometrics.info/top400_rep.asp

(2)機関リポジトリ等による情報発信(続き)

- 図書館からの発信に「紀要の電子化」が貢献
- Open Journal Systemを利用しての学術雑誌出版も開始
 - リポジトリとの連動
- 課題
 - 学内の教員への浸透
 - 「図書館がリポジトリを通じ、安定したアクセスを提供する」という信頼感

3. 今後の課題など

- 図書館の可視性・存在感の向上
 - Visibility, visibility, visibility!
 - 図書館(界)の中だけで閉じるなかれ!
- 研究・調査データのオープンアクセス(パブリックアクセス)
 - Open/public access to research data
 - Parent館長に確認したい点